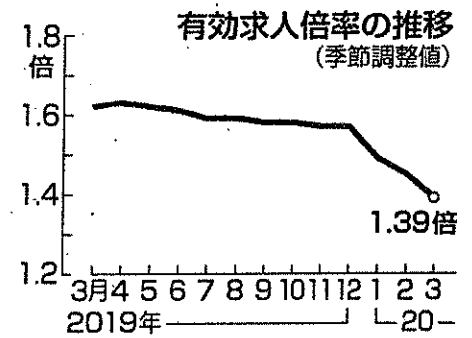


3月求人1.39倍に急落

コロナ禍 初の全都道府県下げ

厚生労働省が28日発表した3月の有効求人倍率（季節調整値）は前月比0・06ポイント下の1・39倍に急落しました。2016年9月以来3年半ぶりの水準。新型コロナウイルスの感染拡大で企業の経営が悪化し、05年2月に就業地別での調査を開始して以来初めて全都道府県で低下しました。また総務省が同日発表した3月の労働力調査によると、



完全失業率（同）は0・1ポイント上の2・5%となり、2カ月ぶりに悪化しました。

事業主の都合による解雇が増え、パートなど非正規労働者の雇用が急減しました。総務省は「新型コロナウイルスの影響が表れつつある」（労働力人口統計室）としており、雇用環境は厳しさを増しています。

厚生省によると、新型コロナウイルスを理由とする解雇や雇

い止めは、27日時点で3391人。宿泊業など観光関係の産業が多いといえます。

求人倍率はハローワークに申し込んだ求職者1人当たりの求人数。3月は求人数が5・9%減で、感染への恐れから求職者数も2・1%減となりました。就業地別では最高が福井の1・90倍、最低が北海道、高知、沖縄の1・18倍でした。

一方、労働力調査によると、完全失業者数は6万人増の172万人。解雇などによる非自発的な離職が増加しました。季節調整前の原数値では、雇用者のうち非正規労働者数は前年同月比26万人減の2150万人。減少幅は比較可能な14年以降で最大で、製造業の契約社員や女性パートの減少が目立ちました。